平成元年四月三十日　郷土研究会　資料

第一六六回
庄和町の文化財と牛島の藤

主催　越谷市郷土研究会

第一六六回　史跡めぐり

とき　平成元年四月三〇日（日）

集合　越谷駅前　午前九時

行き先　庄和町の文化財と牛島の藤

コース　越谷駅＝（電車）春日部乗換＝南桜井駅～蓮花院（ムクの大木）～花蔵院（四脚門）～香取神社（本殿）～江戸川堤～南桜井駅＝（電車）＝藤の牛島駅～藤花園～藤の牛島駅＝（電車）春日部乗り換え＝越谷駅　解散

案内者　理事　丸田　冨夫

◎　庄和町

県の東端に位置する町で、南東は松伏町、西は春日部市、東は江戸川を隔てて千葉県に対している。昭和二十九年七月、川辺、南桜井、富多、宝珠花の四カ村が合併して庄和村となり、同三十五年十一月に杉戸町の一部を編入、同三十九年四月に町制を施行した。

町は江戸川と庄内古川（中川）にはさまれ、江戸川沿いの南桜井、宝珠花に海抜十㍍前後後の台地が分布するほか、大部分が肥沃な沖積低地である。県内でも有数の穀倉地帯であり、江戸時代に開かれた新田村も多い。

町域の北東部、江戸川右岸の西宝珠花は、江戸時代から江戸川、利根川の舟運の河港として栄えたところである。船乗りや船客相手の飯盛屋が軒を並べていた。地名も帆干し場（ほほしば）がなまったものといわれている。

産業面では農業が中心で、米、野菜作りが盛んである。しかし近年東武野田線沿いに都市化が進んでいる。

年中行事としては、五月三～五日に西宝珠花で行われる大凧あげが有名である。

◎　蓮花院　庄和町大衾　真言宗智山派

境内の観音堂は養老年間（717～724）の創建で本尊の千手観音は行基菩薩の作と伝えられている。慶安年間（1648～52）三代家光から観音堂料として十一石の朱印状が与えられている。

ムクノキ　県指定天然記念物

幹回り六㍍、高さ二十七㍍、六本の大枝を分け、枝張り二十五㍍四方に及ぶムクの大木である。樹齢四百年といわれ、樹勢も旺盛で県の天然記念物に指定されている。

◎　ムクノキ　　ニレ科　ムクノキ属

椋、関東以南、四国、九州、沖縄、台湾、中国大陸に広く分布、やや湿気のある谷合に自生するが植栽もされる落葉高木。幹は直立、分枝し、高さ十五～二十㍍、樹皮は灰白色で溝状の隆起が縦走する。葉は互生、卵型、長さ四～一〇㌢。実は秋実り、果皮は昔石鹸代わりに用いられ、特に戦中戦後は重宝されたものである。種子は追い羽根の珠に利用されている。

◎　花蔵院　庄和町西金野井

創建の年代は明らかでないが、所蔵の古文書によると、天正年間（1578～92）には既に存在しており、明治維新のときに神仏分離されるまで、一キロ北東の香取神社の別当寺をつとめていた。大正二年（1923）と昭和二十八年の二回、江戸川改修工事のため移転された。寺域は約八百坪、こじんまりとしており、現在は無住で香取神社の総代が管理している。

四脚門　県指定有形文化財

切妻造り、桟瓦葺き、小建築ながら引き締まった風格のある建物で、細部は禅宗様でまとめられ、各所に施された彫刻などから江戸初期の建立と考えられる。

◎　新義真言宗

真言宗の一派。平安時代の末高野山に大伝法院を創建した覚鑁（かくばん）が金剛峰寺側と、教義上の争いから高野山を出て、紀州の根来寺に移ったために新しい宗派となった。新義真言宗はこの寺で学んだ僧が地方に分散し、その地方で活躍した勢力が形成した集団

である。しかし最初から新義真言宗を名乗ったのではなく、この名が定着したのは江戸時代になってからで、徳川幕府は宗教統制のため本寺、末寺の制度を確立させたが、このときから新義真言宗と、となえだした。

戦国時代の根来寺は比叡山や高野山などと同じく一つの封建領主的な存在であり、とくにこの寺の鉄砲隊は有名であった。羽柴秀吉に敵対したため天正十三年（1585）三月焼き滅ぼされた。

この当時学頭が二人いたが、専誉は大和の長谷寺へ、玄宥は京都智積院へ行き、そこで法幢をたて、江戸時代には新義真言宗の両本山とされた。現在では長谷寺系は真言宗豊山派、智積院系は真言宗智山派と称し「新義」はつけない。

◎　香取神社　庄和町西金野井

創建は明らかでないが、天正十四年（1586）小田原北条氏からの金品の寄進の記録があり、また天正十九年には徳川家康から十石の朱印状を受けている。旧金野井郷の鎮守社として、土地の人々の尊崇を集め、栄えてきた。

境内には県指定天然記念物のケヤキの大木があったが、惜しいことに数年前に枯れた。

本殿　県指定有形文化財

一間社流造り、こけら葺き、切妻造り、小建築であるが、柱は総て円柱を用い、優れた技法がみられる。江戸時代の寛永十六年（1639）を始め数回修理が行われており、現在は覆屋で保護されているので、外部からは見られない。室町時代の末ごろの建立と考えられ県東部地方に残っている優れた古建築である。

◎　香取神宮　　千葉県佐原市香取

旧官幣大社。下総国一の宮。祭神は経津主（ふつぬし）神。古代の地形では東国の東端、大河の河口で、外洋にのぞむ地にあり、鹿島とならんで大和朝廷が早くから関係をもった神社である。

カトリの名は日本書記に「此神今在乎東国梶取之地也」とあるように、カジトリのつまった語で、船の航行を掌ったことによるものであろう。

祭神のフツヌシとは、古事記神武天皇東征記事にでる布都御魂（ふつのみたま）のこと

で、刀剣の鋭い霊威を示す語で、この神は大和朝廷の国土経略に大功のあった武神であった。

奈良時代になると、権力の座を占めた藤原氏は皇基の確立に大功のあったこの神の霊威をもって、氏の権威を示すべく氏神の社を平城京に建立し、鹿島・香取の神を勧請した。すなわち春日神社である。嘉祥三年（850）正一位に叙せられている。

徳川家康は千石の朱印状を与えている。今の社殿は元禄十三年（1700）のもので本殿は重要文化財に指定されている。

なお下総の国内には、当社の分祀である多数の香取神社が分布している。

◎　牛島の藤　春日部市牛島　国指定特別天然記念物

小島すい子氏の庭園にある。ノダフジの老大木で根本から数本に分かれ、根本の周囲は九㍍にも及び、面積百七十坪の藤棚いっぱいに枝をはわせている。樹齢一千二百年といわれ、弘法大師お手植えという伝説がある程である。花房は一～二㍍に達する。

◎　ノダフジ　　マメ科　フジ属

山林に自生し、また広く庭に植えられるつる性の落葉樹。北海道を除く日本各地と朝鮮半島に分布。幹、枝は右巻で高木のこずえにまではいのぼる。葉は互生、有柄、小葉9～13の奇数羽状複葉、花房は垂れ、長さ30～90㌢、ノダは大阪の地名でむかしは藤の名所であった。花期は5～6月

参考文献

郷土の文化財　国土地理協会
埼玉文化財点描　さきたま出版会
ふるさとの散歩道　県政情報資料室
国史大辞典　吉川弘文館
原色樹木図鑑　北隆館
樹の本　板橋区

文責　丸田　冨夫